

団体戦注意事項

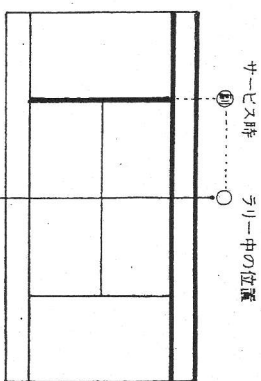
セルフジャッジの場合のルール

- 1、出場者及び引率教諭は、日程表の指定時刻よりはやめに会場に集合し、引率教諭が本部に出席を届けて下さい。
- 2、引率教諭の付添いが無い場合は出場できません。引率教諭は、受付から試合終了・審判までチームの選手の監督・指導にあたって下さい。
対戦校同志の引率教諭の責任（審判の生徒）で試合を進めて下さい。
対戦校同志の引率教諭（審判の生徒）は、試合の始めと終わりには整列させ挨拶及びスコアの確認（終わりに）をして、本部に結果を報告して下さい。
試合に際しての注意
- 3、試合前のウォームアップは、サーブス8本（片サイド4本ずつ）とします。自分の試合が近づいたら各自工夫をして準備運動をすること。
コート外では、ボールを使った練習はできません。
試合着はテニスウェアであれば色は自由とする。
（襟なし、Tシャツ、長そで、長ズボンでは出場できません）
試合の有無不明の場合は、コートに集合し、責任者の指示を受けて下さい。
- 4、試合について
ダブルスは登録した8人の中でどの2人で組んでもよい。
試合順は、D2, D1, S3, S2, S1で行い、学内の実力順に並べる必要はない。対戦校によりオーダーを組み直すことができる。
本部からオーダー用紙を受け取り、あらかじめ記入しておき、指示があったら直ちに本部に提出すること。記入の間違いや出場順に違反があった場合は相手の指示するオーダーを組むこともあるので、注意すること。
試合は、ノーアドバンテージ1セットマッチ（6-6の場合には12ポイントのタイブレーク）とする。
ベンチコーチは1名とし、コートの定められた位置にいないこと。助言、指導はコートチェンジの時のみで、規定の時間内に限る。選手はベンチコーチ以外の者からいかなる助言や指導も受けてはならない。
ベンチコーチはその学校の選手が引率教諭に限られる。
けいれんその他の自然的体力消耗による休憩は認めない。応急処置が必要な場合はレフエリーの許可を受けること。勝手に選手がコートを離れることはできない。
- 5、審判は、対戦校どうしで1名ずつだして行う。
応援について
・サーバーが位置に近づいたら、静かにブレイクに注目すること。
・インブレイク中は音や声は出さぬように注意すること。
・エースショットについては、拍手や声援をして選手を盛り立てるようにしましょう。（野次は慎むこと）
・コート外からのアドバースは禁止である。

- 1、ボールがインパクトかアウトか疑わしい時には相手にポイントを与えない。
- 2、あなたのコートとしてはいけません。
- 3、責任です。相手にわかるようにサインを送りなさい。
- 4、アウトは、またはアウトのコールはただちに（相手が返球を打つ前か返球がアウトしてしまいう前に）おこなわなければなりません。そうしない場合にはボールは、インとしてブレイクが続行されます。
- 5、観衆にライオンのコールの手助けをしてもらってははいけません。
- 6、アウトとコールした後にインであると判つた場合には、ただちにコールを訂正しなければなりません。
- 7、スコアに関する争い事が起こらないように、サーバーは新しいゲームに入るごとにゲームのカウント（例えば5-4）をコールし、サーブごとにポイントのカウント（例えば40-30）をコールしなければなりません。
- 8、お互いがスコアに同意できない時には、そのゲームの各ポイントを再確認していきなさい。それでも疑問が残る場合には15オール、30オール、ジュースのうちスコアに最も近いものを選んでゲームを進めなさい。
- 9、フットフォールは規則違反です。警告されてもフットフォールが続く場合には近くにいる先生に告げなさい。
- 10、ぐずぐずしたり、ふてくされたり、文句を言ったり、相手をだましたりしてはいけません。
- 10、お互いに判断のさせない場合、または繰り返しあきらかなミスジャッジが出た場合は、先生を呼びなさい。

審判がつく場合のルール

- 1、審判は中立な立場に立ち、公平な判定をすること。
- 2、主審、副審とも責任を持って担当するライオンの判定を行う。（副審は、図の本線の部分のライオンを受け持つ。オーバーボールはありません。）
- 3、アウトの場合にはハッキリと選手と観客にわかるように大声でコールする。
ジェスチャーだけで行いコールをしないことがないように注意する。
- 4、副審はサーブスの判定が終わったらボストの位置まで戻り、図の位置に立つこと。



本線の部分が副審の受け持つところです。